

令和5年度 健康教育支援事業「いのちの授業」

開催日: 令和5年10月4日(水)
場 所: 揖斐川町立北和中学校
対 象: 全学年・保護者・近隣学校職員

1 事業内容

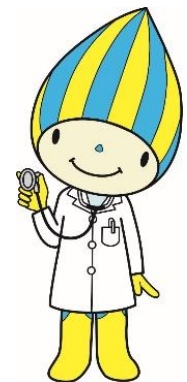
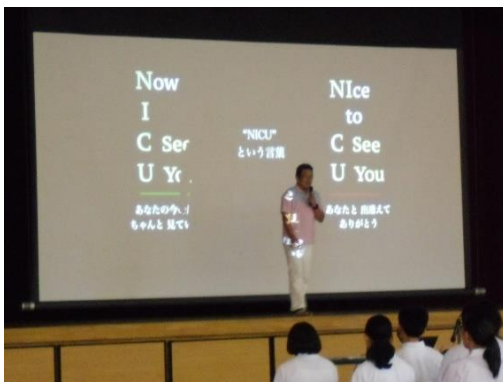
岐阜県総合医療センター新生児内科の寺澤大祐医師を講師に招き、かけがえのないいのちの尊さについての理解と、自他ともに尊重して高まり合う態度の醸成に関する講義を行う。

2 講義の内容について

新生児医療の現場、小さな命を救うために多くの人が関わっている事、誕生日を迎える事ができる奇跡など、具体的な例を交えお話しいただいた。

<講義でお話しいただいたこと(一部)>

- ・「すべての子どもが大人になれますように」という願いをもって医療に携わっている。
- ・クラスに1人くらいの割合(28人中1人・3.5%)で、新生児医療を受けている。
- ・未熟児の赤ちゃんの中には365g(ペットボトルより軽い)、24cm(中学生の足のサイズ)程で生まれてきた子もいる。皮膚がまだできていないため肌が赤黒く、目も成長しきっていないため、目も開けられない。そんな赤ちゃんも、3週間ほどで、赤ちゃんらしい姿に成長する。赤ちゃんは「生きているだけで、人間は変わる。」と教えてくれる。
- ・「しゃぼん玉」の作詞者は、生まれたばかりのわが子をわずか1週間で亡くした。そのときの思いを詩にして、幼い我が子の死を悼んだ。
- ・「誕生日おめでとう」の意味。病気を患って生まれてきても、健康に生まれてきても、明日生きている保証はない。だから、昨日から今日生きていたら、それだけで奇跡。その奇跡がつながって誕生日がくる。
- ・子どもは「自分のための学び」、大人になると「社会のための学び」に変わる。誰かのことを支える人になろう。
- ・ドクターヘリの運転士や整備士、赤ちゃん2人を乗せられる特注の救急車を作ってくれた会社や技術者の方も、子どもの命を救うために、一緒に動いてくれる仲間。
- ・小さな子どもが懸命に生きている姿から、自らの役割を全うすることが大切だと感じる。「私の生まれてきただけは…。あなたが生まれてきただけは…。」
- ・NICU⇒Now I see(C) you. 「あなたの今をちゃんと見てるよ。」
⇒Nice to see(C) you. 「あなたと出会えてありがとう。」



3 生徒の感想

【3年】

「いのちの授業」を聞いて、私は1日1日が奇跡であることを忘れないでおこうと思いました。私にも妹がいました。でも、母のお腹のなかでなくなりました。顔も名前もしらない妹ですが、同じ母のお腹のなかにいたことが奇跡なんだなと思いました。今は自分のために。いつかは誰かのために生きられるように1日を大切に生きていきたいです。



【3年】

私も、生まれつき心臓の病気があって、生まれてから半年くらい保育器の中やNICUにいました。自分と同じ病気はあまりないかもしれないけれど、自分と同じように病気を持った人がいることを知って少し安心しました。

【2年】

私が今日、心に残ったことは、命の尊さです。私は、日々生きていくうえで、「命」についてあまり深く考えていませんでした。でも、今日の話のように少し深く考えてみると、今日生きていることは、奇跡だと感じました。私は普段ケンカをした時、すぐに悪口を言ってしまいます。命は1つしかないので、その1つしっかり守って大切にしたいです。

【2年】

「いのちの授業」を聞いて、自分は健康で生まれてきたことに感謝して過ごしたいと思いました。疾患を持って生まれたからかわいそうと思うのではなく、私たちに「1日1日を一生懸命に生きて欲しい」ということを教えてくれていると思います。なので、これからは、苦手なことや難しいことがあっても、「これが生きる幸せなのだ」と感じて挑戦して悔いのない人生を送りたいです。

【1年】

寺澤先生の話聞いて、少し涙がでました。私が分かったことは、1日1日が大切で明日が来るのが奇跡だと気づきました。なので、ここまで育ててくれた人たちに「ありがとう」を言いたい。

【1年】

いのちの授業で思ったことは、今生きているのはすごいことなんだと思いました。赤ちゃんのころ健康に生まれたけど、なかにはたくさんの病気を持って生まれてくることをしりました。その子たちは、必死に治そうとしているので、私もできないことや頑張りたいことを一生けん命やれるような自分でいたいです。

